

校外施設の活用に関する研究(3)

Study on the Use of Off-Campus Educational Facilities (3)

妙高施設委員会

岩藤 英司 坂井 英夫 松本 至巨 祖慶 良謙 安井 崇 石崎 智子

〈要旨〉

一昨年度より6か年計画で本研究はスタートした。本研究は、学校教育における校外施設の果たすべき役割、校外施設の効果的な活用方法などについて調査・研究を進めて行く事を目的としている。今年度は、さまざまな方面からのご支援及びご助力をいただきながら、本校の所有する校外施設「妙高教育研究所」(以下、「妙高寮」)について、これまでの利用方法とは異なった活用方法について試行検討し、今後の展開を見いだしたことを中心に報告する。

〈キーワード〉 校外施設 妙高教育研究所(妙高寮) 55期スキー学校 教員研修 保護者 同窓生

1 はじめに

本研究は、一昨年度より6か年計画でスタートした。これまでの研究の成果は、「附属学校研究紀要第34集」および「附属学校研究紀要第35集」に著しているので参照されたい。

今年度は、さまざまな方面からのご支援ご助力をいただきながら、特に本校の妙高寮を活用して幾つかの新たな企画が積極的に展開された。利用者からはいずれも好意的な感想が寄せられ、妙高寮の活用方法について、今年度の検討にとどまらず、さらに引き続いて次年度や次々年度にもいろいろな方法を試行検討し活用をはかっていくべきであると考えられる。

以下、特にこれまでと異なった妙高寮の利用について今年度実施したいくつかの事例を中心に述べる。

(文責 岩藤 英司)

2 妙高寮利用の新たな展開

昨年度(平成19年度)まで、本校現役生徒が妙高寮をする機会は、

- (1)1学年における林間学校(全員参加)
- (2)夏期合宿(利用者のみ)
- (3)2学年によるスキー教室(希望者のみ)

に尽きた。

同窓生は、ときどき任意に集まったグループやその家族などと共に希望して利用する機会があったが、その回数は毎年、年間ほんの数回にとどまっている。

その他には、春と秋の親睦旅行および3年前から復活した冬の親睦旅行での現役生保護者と教員による利用が大口の利用者であり、それ以外は、少人数の保護者、同

窓生の保護者、教員の利用が見られる程度であった。

本研究のメンバーの間では、利用回数を増加させるためさまざまな企画が提案された。新たな企画を実現させるためには予算面や周囲の理解を得ることなど多くの困難が予想されたが、今年度は、関係各方面からのご支援ご助力により、妙高寮を利用して次のような新たな行事や企画が実施された。

- (1)本校55期生スキー学校
- (2)本校51期生保護者親睦旅行
- (3)平成20年度東京学芸大学附属高等学校理科SPP特別公開講座現職教員研修
- (4)本校53期生保護者有志妙高山登山

ここでは、紙面の制約上(1)~(3)について以下に述べることにする。

(文責 岩藤 英司)

3 本校55期生スキー学校

妙高寮を使用した1年生対象のスキー学校は、47期を最後に長く途絶えていた。この間、妙高寮を利用してスキー学校を行うことを模索した学年もあったが、実現には至らなかった。これは、48期よりスキー学校を行っている志賀高原の宿泊施設が大規模であるため、妙高で実施していた時のように参加者を3期に分けて実施する必要がなく、1度に全員を引率できるメリットがあったからであろうと推察される。

しかし、55期では、妙高寮で行うスキー学校にこそ教育的価値があると考え、妙高高原と志賀高原の双方で時期をずらして実施することとした。そこで、12月末の1期と1月初めの2期を妙高高原で、3月中旬に実施

する3期を志賀高原で行うことと決め、9月末に生徒および保護者に通知し、参加希望者の募集を始めた。

その結果、残念なことに、1期は参加希望者が20人に満たず、生徒1人あたりの交通費やスキー講習の経費が予定よりもかさんでしまうことからやむを得ず中止とした。

1期を希望していた生徒には、2期あるいは3期への変更を求め、それぞれ希望する方に変更してもらった。これにより、2期は41名の生徒が参加することとなり、2009年1月4日(日)から1月7日(水)にかけて妙高寮を利用してスキー学校を実施した(3期は172名が参加)。

今年の妙高原は、12月に入ってからの降雪量が少なく、引率教員が実地踏査に行った12月中旬は、スキー講習が行われる赤倉温泉スキー場のゲレンデに雪がまったくなかった。そのため、雪不足が心配されたが、1期を予定していた12月末によく本格的な降雪がみられ、まもなくスキー場がオープンされた。2期のスキー学校が始まる頃には、例年よりも雪が少ないものの、良質の雪がすべてのゲレンデを覆っている状態になっていて、講習を行うには最適であった。

スキー講習、スキー用品の手配、昼食およびリフト券の手配は、大手旅行会社を通して依頼した。スキー講習は、赤倉温泉スキー場では評判のよいスキースクールに依頼することができた。このスキースクールは、地元の人を中心に講師を雇っていて、人柄もよく丁寧な講習で知られており、生徒達は楽しそうに講習を受けていた。スキー用品については、スキー靴およびスキーウェアは妙高寮で、スキー板はゲレンデの入口において業者との受け渡し・引き取りが行われた。昼食は、ゲレンデ内の食堂を時間貸し切りで利用した。この食堂は、今回のスキー講習中の引率教員の本部としたものであり、講習中体調不良者等が出た時、ここで休息をとることができた。生徒達は、食後1時間くらいこの食堂でゆっくりと休息をとった。リフト券については、赤倉温泉スキー場全域で利用できるものを学生団体割引料金で発行したものを利用した。

スキー講習で最も心配されるのは、安全対策である。講習中の生徒の安全確保については、すべてスキースクールに任せ、万一事故等が発生した場合には、各講師からスキースクール校長を経由してゲレンデ内にある本校の引率教員に連絡が来る体制をとった。そのため、引率教員は1名が巡回および写真撮影などの記録、他の1名がゲレンデ内の食堂に待機する体制をとった。雪が多少強く降ったこともあったが、概ね天候もよく、生徒達

は充実したスキー講習を受けることができた。



写真1 スキー学校1



写真2 スキー学校2

妙高寮すなわち妙高教育研究所は、その名の通り教育施設であることから、一般のホテルに比べて生徒指導がしやすい構造になっている。そのため、夜間の就寝指導も徹底され、昼のスキー講習における怪我や事故を減らすことができる効果がみられる。今回もスキー講習中における怪我や事故は一切なかった。

また、各部屋には寝具しかないため、自然と食堂を兼ねたホールに生徒たちが集まり、多くの生徒がここで楽しい時間を過ごすことができ、親睦を深めることができていた。食事セルフサービスであるが、食事当番を部屋ごとに決め、協力しあって準備・片付けをしていた。

妙高寮におけるスキー学校では、スキー技術だけではなく、集団生活を通してさまざまなことを学ばせることができた。これは夏に行われる林間学校と同様であり、民間のホテルを利用したスキー学校よりもはるかに教育効果は高いと考えられる。研究所とスキー場は送迎バスで約15分の距離にあり多少不便を感じるかも知れないが、スキースクールとの連絡体制を確立し、昼食などで

生徒が十分休養できる施設を確保し、研究所とスキー場の間の輸送体制を整えておけば、充実したスキー学校を実施することが十分可能であることがわかる。

(文責 松本 至巨)

4 本校 51 期生保護者親睦旅行

2008年11月22日・23日の土曜・日曜で、2007年の春に卒業した51期の保護者の親睦旅行を実施した。

本校で現役の生徒の保護者を対象に行われている春・秋・冬の親睦旅行は、PTAである泰山会の事務局および妙高施設委員会が旅行の運営を行っているが、今回行われた51期保護者親睦旅行では、51期保護者自らが運営することにより実施された。

そのため、現役生徒の保護者対象の親睦旅行では東京から長野・新潟県内まで新幹線を利用しているが、その実施方法とは異なり、今回は東京から貸切バスを利用した。22日の朝新宿に集合し、一路高速道路を利用して長野県安曇野をめざした。途中、中央自動車道の諏訪湖サービスエリアで昼食をとり、長野県北安曇郡松川村の安曇野ちひろ美術館を見学し、さらに安曇野市の大王わさび農園で休憩・買物をし、妙高寮に向かった。妙高高原には積雪がみられ、すでに冬の装いを呈していた。

妙高寮では、夜に懇親会が行われた。今回の親睦旅行には、学校側から副校長と51期担任5人が参加した。そのため、この夜の会は、51期卒業後初の保護者と担任団との懇親会となり、卒業後の生徒達の活躍の様子についての話題が尽きず、たいへん和やかな会となった。また、この親睦旅行に参加した保護者の多くは、五十嵐副校長による「源氏物語」講座の聴講者であることから、懇親会中に「源氏物語」の講釈も行われ、非常に文化的な雰囲気が感じられた。

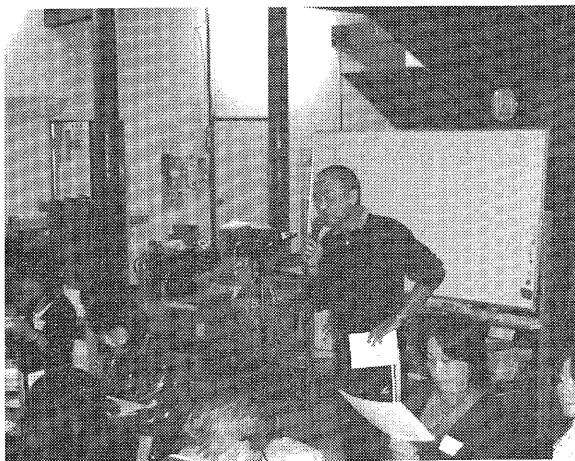


写真3 本校 51 期生保護者親睦旅行 1

翌23日は、妙高教育研究所を朝出発し、上越市の酒造会社を見学した。ここでは、酒造りの行程について詳しい説明を受けることができた。続いて、長野県木島平村の観光交流センターに行き、そば打ちを体験した。

木島平村を訪れた理由は、この村の現副村長が本校の卒業生であり、熱心な訪問依頼があったからである。観光交流センターでは副村長自らの出迎えがあり、そば打ちの前に来訪を歓迎する丁寧な挨拶があった。その後、同じ木島平村の「郷の家」に行き、地元の語り部より昔話を聞いた。これは、地元の方がこの地域に伝わる昔話を地元の方言で観光客に聞かせるというものである。のどかな語り口調は、聞いている者をうっとりさせ、いつしか物語に引き込まれていくような感じであった。



写真4 本校 51 期生保護者親睦旅行2

予定では、昔話を聞いた後、同村内の馬曲温泉の立ち寄り湯に寄る予定であったが、時間が遅くなってしまったため、「郷の家」から直接東京に貸切バスで向かうこととなった。途中、群馬県内および埼玉県内で高速道路渋滞に巻き込まれてしまったため、東京・池袋駅西口に帰着したのは夜8時過ぎになってしまった。しかし、51期保護者は疲れた様子もなく、旅行を楽しんだという充実した表情で自宅に向かって行った。

今回の親睦旅行に参加した51期保護者の多くは、子どもが現役の生徒であった時の保護者対象の親睦旅行に参加したことのある方であった。親睦旅行同窓会と銘打って参加された保護者も多く見られ、今回の親睦旅行は、現役時代の親睦旅行の続きという感じが強かった。

51期生が3年の秋に行われた親睦旅行中に、保護者の間から卒業後の親睦旅行の実施を希望する声が多く聞かれた。今回は、その思いが実現したものであり、今後も51期の保護者の親睦旅行が継続されることを願うとともに、卒業した他の学年の保護者の親睦旅行が実施さ

れることを強く望む。

(文責 松本 至巨)

5 平成20年度東京学芸大学附属高等学校理科 SPP 特別公開講座現職教員研修

5-1 テーマ

妙高の大自然にて学ぶ本物の理科教育

～植物、地形、星空、自然科学教育論、工場見学研修など～

5-2 ねらい

日常、理科教員は学校現場から離れて自然の中で実物を見ながら実地で実験したり実習したりする研修する機会が非常に少なく、ともすると教科書や参考文献など紙の上だけでの指導になりがちである。しかしながら、指導する立場にある教員も指導される生徒たちも、お互いに自らの実体験をふまえた上で経験を共有しながら自然科学を学んでいくことが本来は必要である場面が少なくない。

そこで本講座は、文部科学省 SPP 事業の1つとして、本校の教育研究所のある妙高高原およびその近郊において、植物、地形、星などについての自然観察を、普段理科の指導に当たっている教員自らが実体験し、またこれらを利用した実験や実習なども行いながら、現職教員の指導力の向上に資するものである。

さらにまた、信越地方にあるいろいろな工場に協力をいただき、各種工場にて見学研修を行って日常の理科の指導に活用するように予定するとともに、宿泊の研修であることをフル活用し、夕方～夜にかけても、自然科学の研究に携わる専門家を講師に招き、専門家の立場からみた現在の理科教育についての講演およびパネルディスカッションなどを行なうこととした。

文部科学省の1事業を妙高寮を利用して恙無く実施できたことの意義は深いと考えられる。

5-3 実施対象

- (1)中学校および高等学校の理科教員
- (2)その他の理科教員
- (3)教員志望学生
- (4)その他(総合学習の教育に携わる者など)

5-4 実施日程

東京学芸大学附属高等学校妙高教育研究所にて1泊

し、1回あたり2日間かけた講座を年2回(夏1回および冬1回)の実施を計画した。

(1)第1回

実施日時：平成20年8月11日、12日(1泊2日)

集合場所：池袋西口東京芸術劇場前

集合時間：8時00分

行程：

8月11日

池袋西口東京芸術劇場前出発8:10(中型貸切バス1台にて)→関越練馬→(高速道：関越、長野道途中休憩、昼食休憩=東部湯の丸SA)→信濃町IC、ナウマン象博物館(長野県野尻湖)(見学1300-1500約2時間学芸員解説)→東京学芸大学附属高等学校妙高教育研究所(別称：「妙高寮」に宿泊)到着午後16時

妙高寮にて、講演、対談、星空観察、理科教育を語ろう会(懇親会)

8月12日

起床7時30分 朝食8時00分

妙高寮出発9時00分

→920イモリ池、妙高ビジターセンター見学 出発1020→妙高IC→(高速道：長野道、中央道 途中休憩昼食=諏訪湖SA)→勝沼IC

→1300-1400 ロリアンワイン白百合醸造見学

→勝沼IC(高速道：中央道途中休憩)→新宿西口 午後5時30分到着

特別講師：JAXA 高度ミッション研究員、科学ジャーナリスト中野不二男氏

(2)第2回

実施日時：平成21年1月24日、25日(1泊2日)

集合場所：池袋西口東京芸術劇場前

集合時間：8時00分

行程：

1月24日

池袋西口東京芸術劇場前出発8:10(大型貸切バス1台にて)→関越練馬→(高速道：関越道途中休憩、昼食休憩含む)→新潟県新潟市：シリコン工場見学(14:00～16:00)→新潟県妙高市：東京学芸大学附属高等学校妙高教育研究所(別称：「妙高寮」に宿泊)到着午後6時

妙高寮にて、講演、対談、雪景色観察、理科教育を語ろう会(懇親会)

1月25日

起床 7時30分 朝食 8時00分～

妙高寮出発 9時00分

→糸魚川市：フォッサマグナミュージアム（10：00～11：30 自由見学）→上越市：昼食、酒醸造元見学→（高速道：長野道、関越道途中休憩含む）→池袋西口東京芸術劇場前午後7時到着

特別講師：JAXA 高度ミッション研究員、科学ジャーナリスト中野不二男氏、早稲田大学先進理工学部教授本間敬之先生（本校同窓生）

5-5 実施結果

研修に参加された本校以外の教員からは、東京にいただけでは決して体験できないことが経験できたなどといずれも好意的な感想が聞かれ、本研修の成果を伺うことができた。特に、妙高寮での特別講師のセミナーは好評であり、せっかくの施設をフルに活用させるべきだとの意見が、参加者のみならず講師からも寄せられた。妙高寮の活用をさらに今後検討するべきであるとの外部からの指摘をうけ、今回以上に甲信越地方のさまざまな機関と連携を図りながら、妙高寮独自のセミナーなどの企画運営にあたって行くことが、今後の課題であると考えられる。

以下、第1回目の実施行程に従って、研修の様子の写真をまとめた。



写真6 ナウマンゾウ博物館2



写真7 ナウマンゾウ博物館3



写真5 ナウマンゾウ博物館1

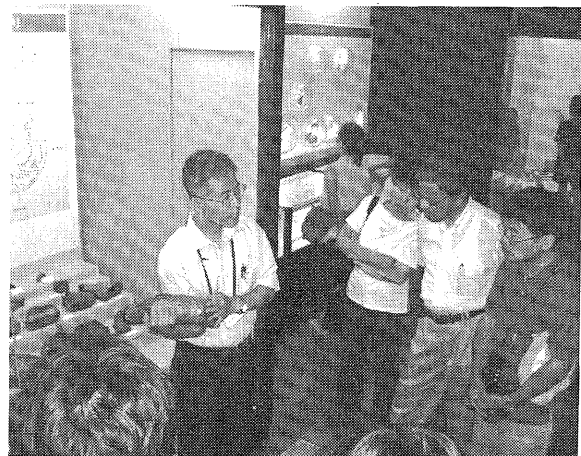


写真8 ナウマンゾウ博物館4

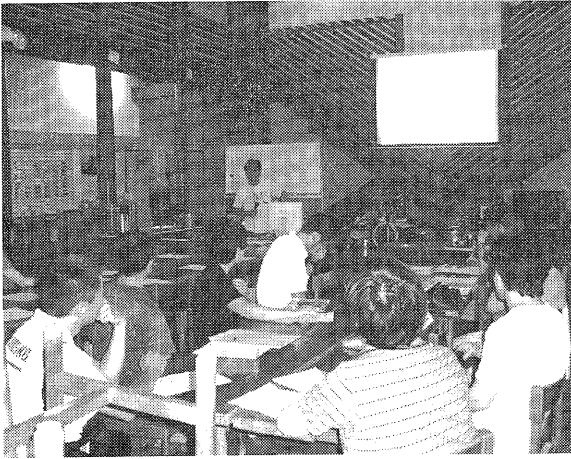


写真9 妙高寮でのセミナー1

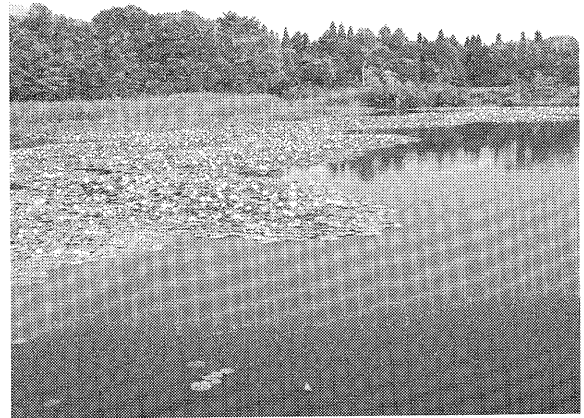


写真12 妙高ビジターセンター2

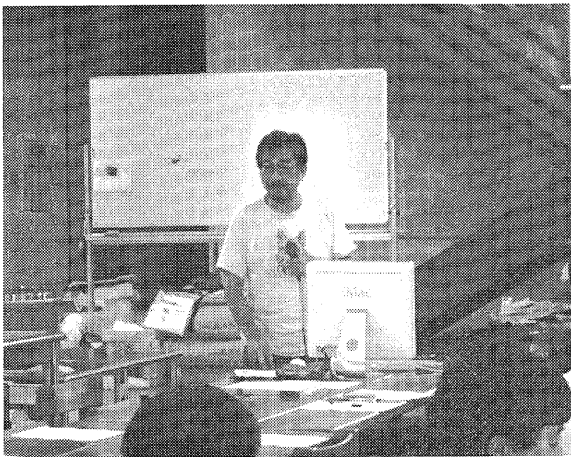


写真10 妙高寮でのセミナー2

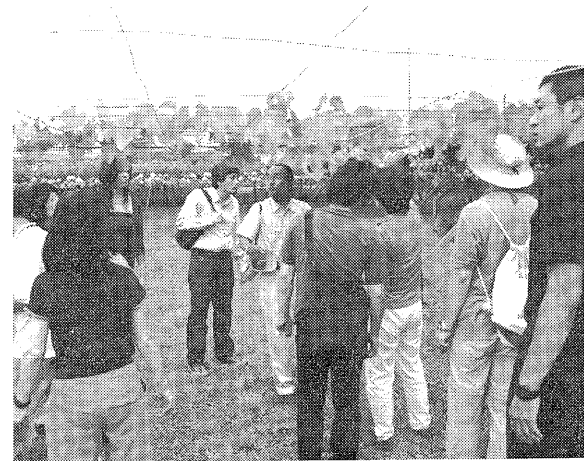


写真13 ロリアルワイン白百合醸造1



写真11 妙高ビジターセンター1

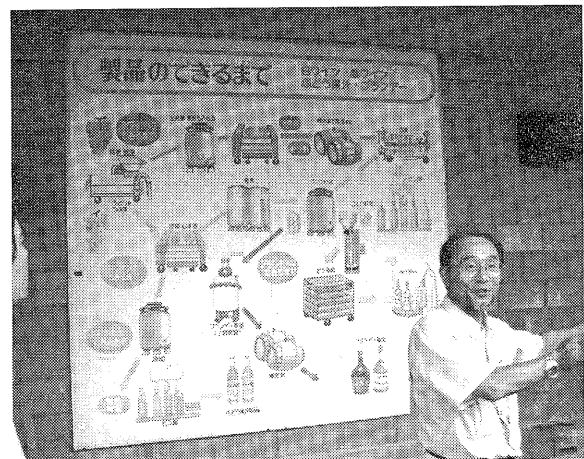


写真14 ロリアルワイン白百合醸造2

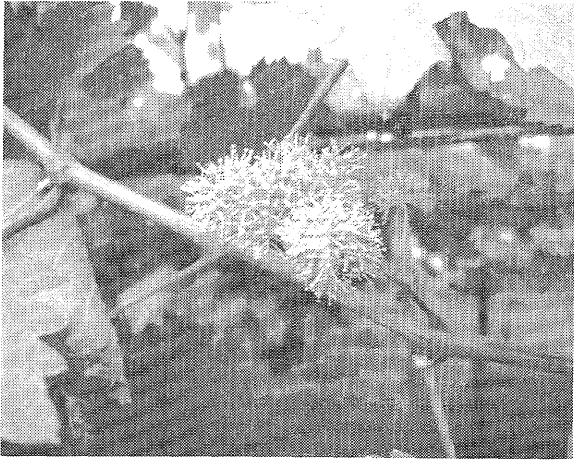


写真15 ロリアルワイン白百合醸造4

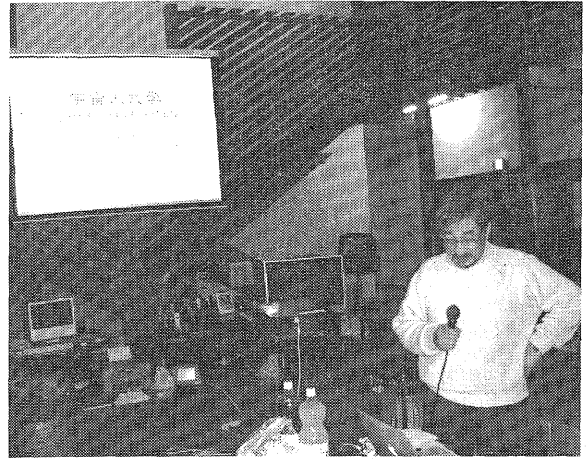


写真18 妙高寮セミナー1

また、次に、第2回目の実施行程に従って、研修の様子
の写真をまとめた。



写真16 (株)コバレントマテリアル1



写真19 妙高寮セミナー2

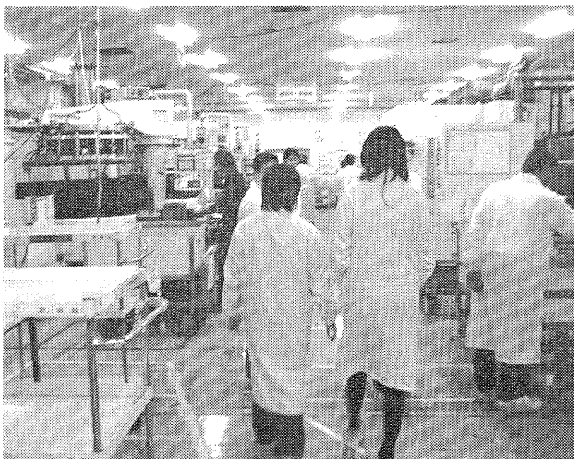


写真17 (株)コバレントマテリアル2

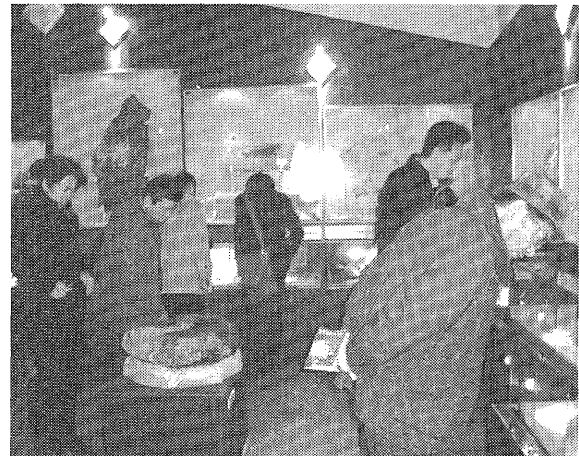


写真20 フォッサマグナミュージアム研修



写真 21 (株)武蔵野酒造にて発酵研修

(文責 岩藤 英司)

6 おわりに

妙高寮は、約40年間、今までさまざまな方々に支えられながら運営されてきた本校の貴重な財産の1つである。受け継がれてきた伝統と時代に即した利用方法を織り交ぜつつ、今後もさまざまに工夫した企画を考案し実施していくべきであると考えます。

なお、本校泰山会元事務局の鈴木玄秀氏が2008年2月死去されました。ここに鈴木氏の妙高寮に関する多大なる生前の労に感謝申し上げるとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。

【研究協力者】

本校元泰山会事務局 故 鈴木 玄秀氏

本校副校長 五十嵐一郎氏

妙高寮支配人 加藤 三男氏

本校元教員 平野 慎一氏 (前総務部長)

本校教員 宮城 政昭氏 (総務部長)

佐藤 健太氏 (前妙高寮委員)

泰山会事務局 松林 忠利氏

JAXA 高度ミッション研究員、科学ジャーナリスト

中野不二男氏

早稲田大学先進理工学部教授

本間 敬之氏 (本校同窓生)

(文責 岩藤 英司)